



豊橋かき塾

柿の生態や摘蕾作業を学ぶ



JA豊橋は高齢化や後継者不足による柿生産者の減少と産地規模の縮小化が加速していることから、産地の中核的担い手確保と多様な担い手の獲得と育成を目的として平成30年度から「豊橋かき塾」を開講しました。

受講者は柿栽培者の家族で今まで他に勤めていたが柿農家を継ぐうと思っている人、柿生産者の家に嫁いできた人などこれから柿を栽培しようとしている人で約30人が受講しました。

4月28日に開かれた第1回目の講習では、第六事業所で開講式を行い、その後愛知県東三河農林水産事務所農業改良普及課の栗山幸子主任による「柿の生理生態・摘蕾（てぎらい）」の講義が行われ、柿の分類と品種紹介や1年間の柿の生育

と栽培管理などの説明がありました。



摘蕾方法を説明するJA職員(右)



栗山主任の説明を聞く受講者

講義のあとは園地に移動し、4月から5月に行く摘蕾作業の実習を行いました。栗山主任の他、柿部会役員、JA職員も講師となり、受講者は4つの班に分かれ、説明を受けながら自ら摘蕾作業をしました。

受講者は今回から12月末まで5回にわたり、柿の栽培や経営に関する基礎知識を学びます。